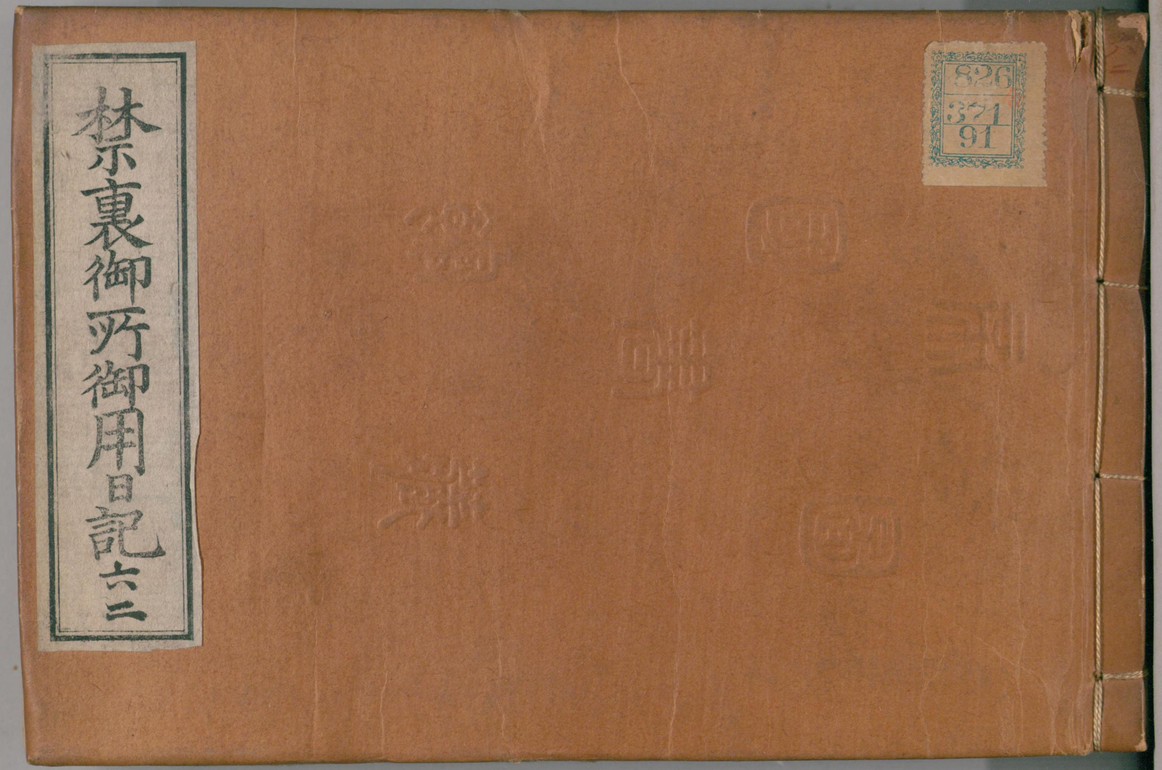
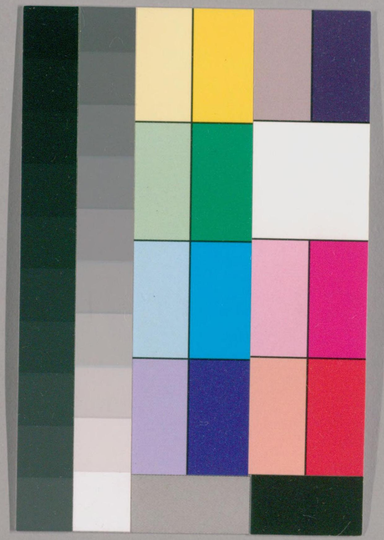
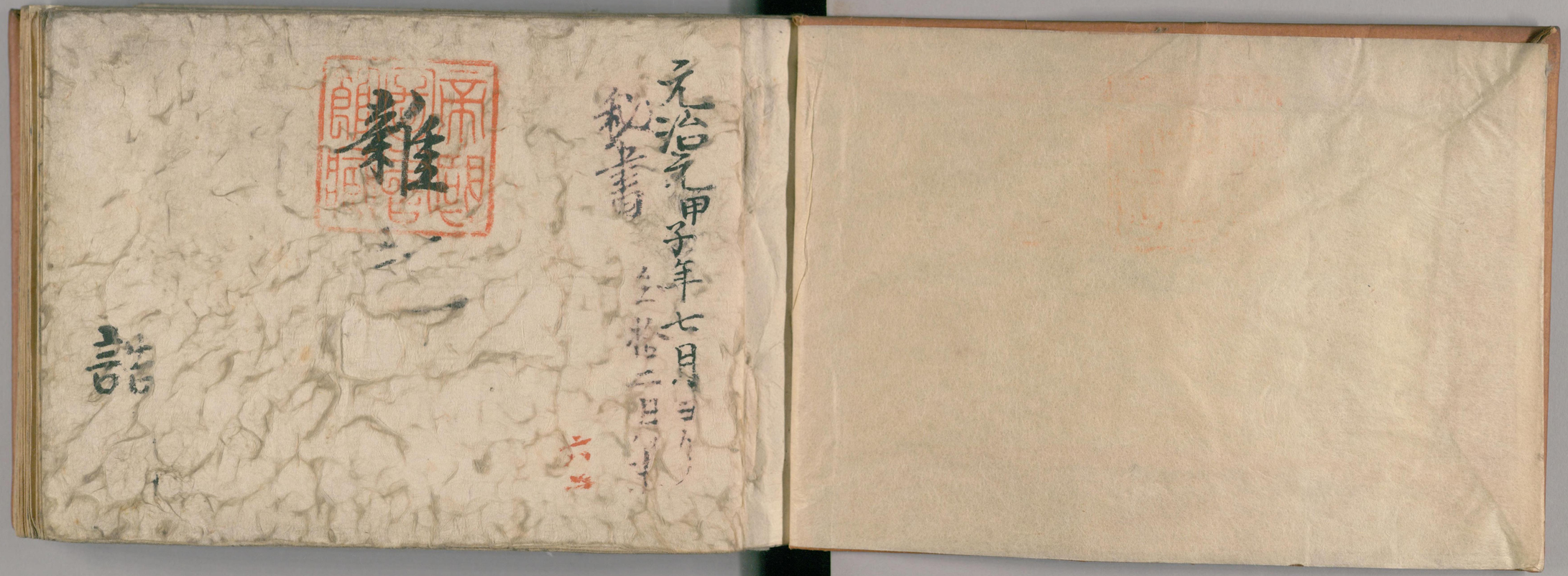


826
371
91



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用

霊鑑寺　野宮殿　中宮寺　法華寺
圓照寺　野宮殿　大聖寺　飛鳥井殿
曇華院　野宮殿　寶鏡寺　新宮殿
林丘寺　飛鳥井殿　三時知恩寺　傳長奏
瑞龍寺　野宮殿　光照院　廣橋殿
法華寺　廣橋殿

有栖川宮　野宮殿　伏見宮　飛鳥井殿
桂御所　野宮殿　閑院宮　野宮殿
中川宮　飛鳥井殿　山階宮　野宮殿
輪王寺宮　野宮殿　聖護院宮　新宮殿
青蓮院殿　飛鳥井殿　圓滿院殿
仁和寺宮　野宮殿　梶井宮　飛鳥井殿
妙法院宮　飛鳥井殿　知恩院宮　野宮殿
一乗院殿　飛鳥井殿　曼殊院殿　廣橋殿
勸修寺殿　飛鳥井殿　大覺寺殿　飛鳥井殿
隨心院殿　野宮殿　三寶寺殿　廣橋殿
大乗院殿　新宮殿　實相院殿　新宮殿

七月朔日
一明後二日
一掲　野宮殿　老中三人

大正
6. 4. 13
購求

今津一枚
新司代三人
右書中寺等ハ使生翔一折ニ
長判ニ而ハ行向候ハ、
ハ後帳役中後仕丁頭常素、
中次第ハ筆頭ハ中次第ニ
右ハ親王様ニハ使ニ遣ス
行向ハ筆頭ハ中次第ニ
一明後日　中條　今川
右同断ニハ使ニ遣ス　石田
ハ使ニ遣ス　行向候ハ、

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

一今度唐門へ乱心輩ニ而
右ニ付又候御口達

一諸門之内ニ而人を切候ニ付
御門を閉候事

一高張之儀ハ
御門之内ニ而ハ
無用ニ候事

七日

一定詰之諸大夫
諸士ニ至迄
御用ニ付
御呼出之節ハ
早速罷出候様ニ
可被申渡候事

一諸家之面々
御門内ニ而
御駕籠ニ
召候儀
御免之事

一諸家之面々
御門内ニ而
御馬ニ
召候儀
御免之事

右之通被
仰出候間
可被得其意候

一諸家之面々
御門内ニ而
御用ニ付
御呼出之節ハ
早速罷出候様ニ
可被申渡候事

一諸家之面々
御門内ニ而
御駕籠ニ
召候儀
御免之事

一諸家之面々
御門内ニ而
御馬ニ
召候儀
御免之事

右之通被
仰出候間
可被得其意候

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

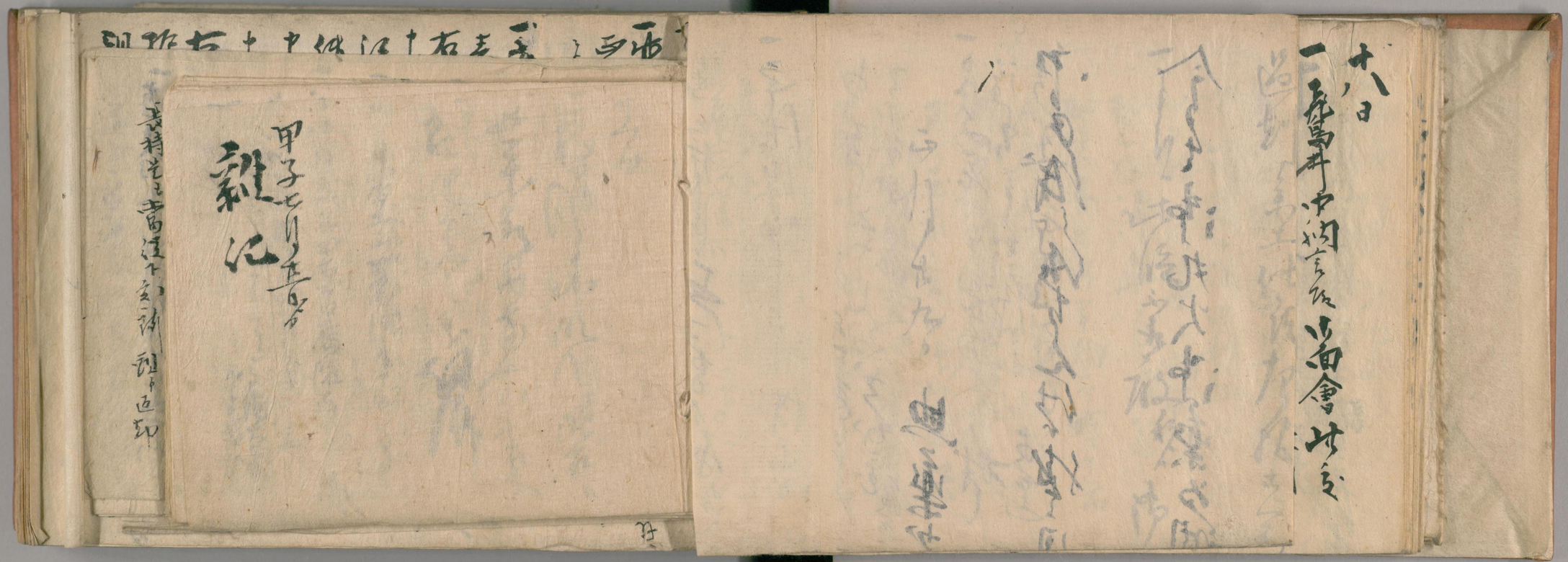
一當村ゟ歎願書差出候事

十二月

一山科村ゟ百姓共ゟ歎願書差出候
先達而御取扱之儀ニ付右御礼ニ参
雑喉場ニ而書之筆ニ而
五拾人 山科中
五拾人 外ニ惣

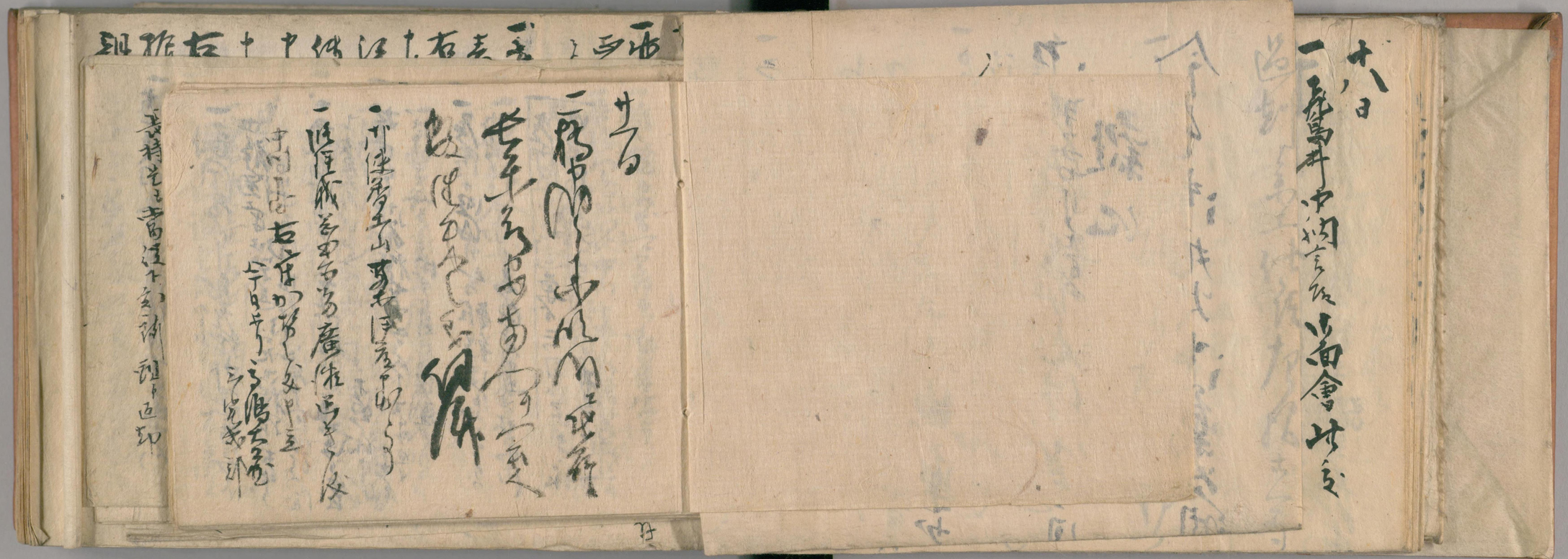
（終ニ受之候而野村名有之ニ付
歎願人ニ而之間由尼崎村ゟ
惣代之人）

右之通ニ而山科村ゟ歎願ニ付
ニ而ハ無之候得共
ニ付ニ而差出ニ付
ニ而ハ無之候得共
ニ付ニ而差出ニ付
ニ而ハ無之候得共
ニ付ニ而差出



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用

十八日

一 高井中納言殿 當舎并

一 神前御祓 休息小途 并ニ 當士
出勤メリ 修理職 申上

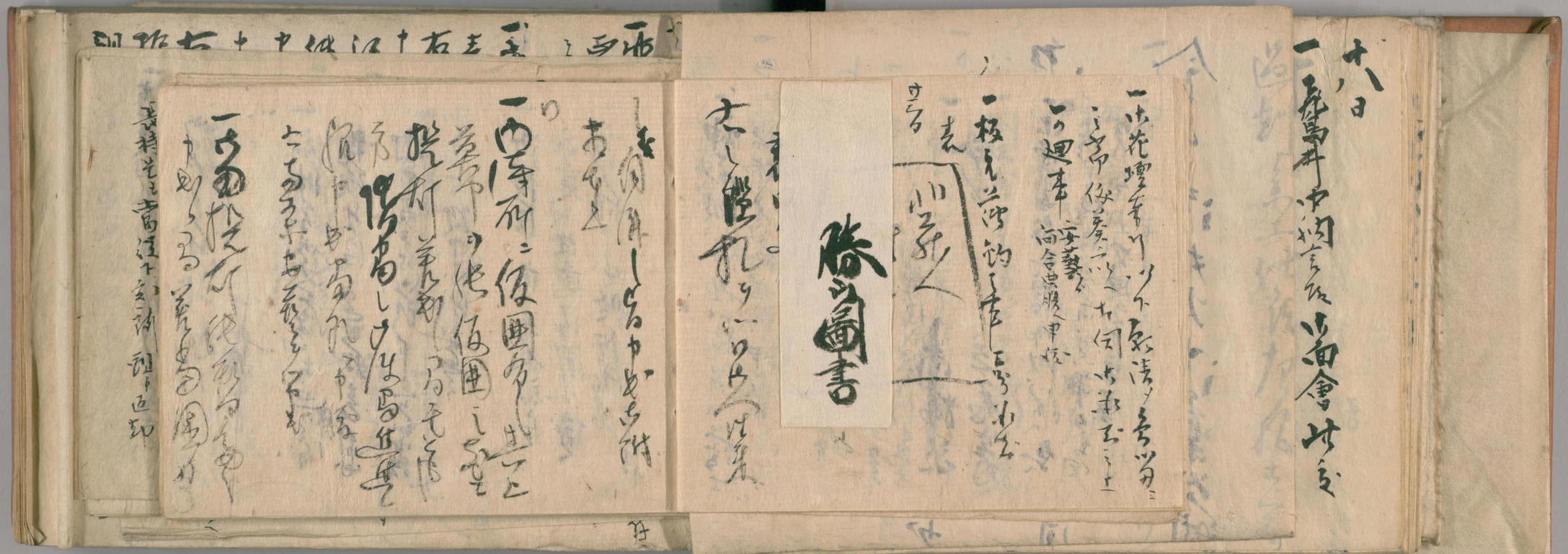
一 今日 御祭 如例 御拝 被遊

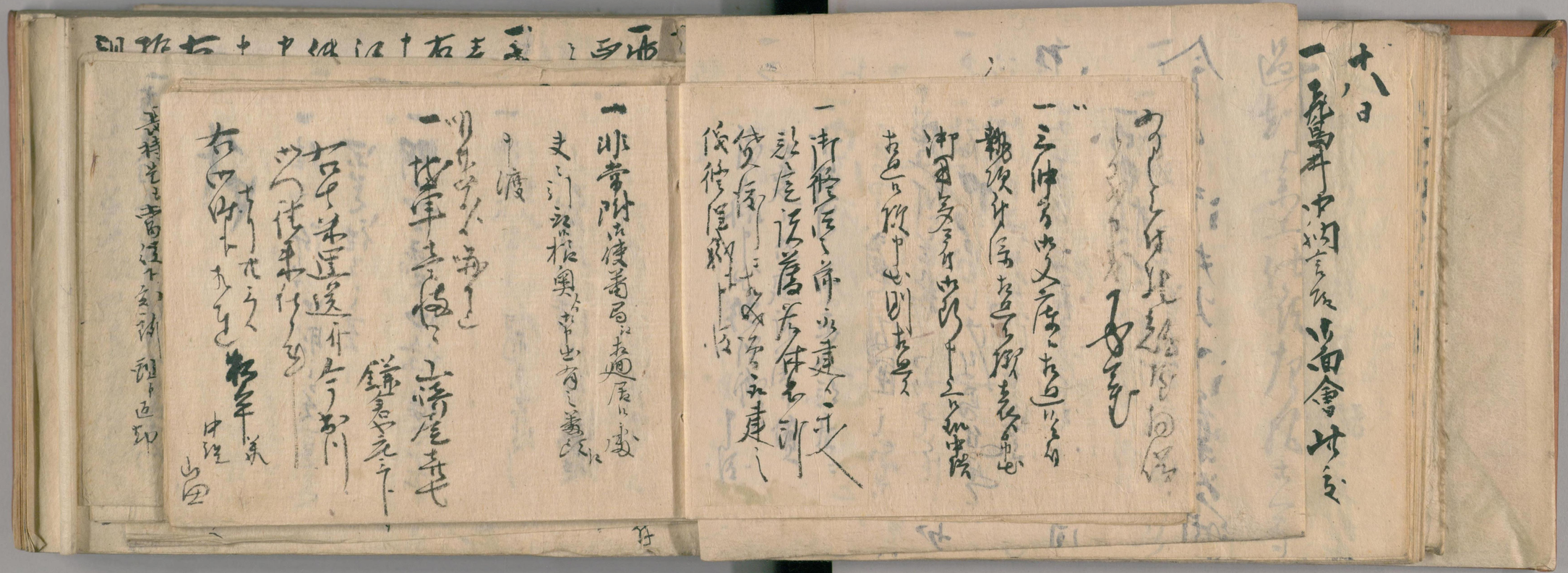
一 御拝

一 上使 無之 常御殿 ニ而
清ノ間 御祭文 読上 其節々ニ
御礼 申上 又 退出

一 到来 有之 候節 ハ
一 小納言 殿 ハ 御逢 被遊 候 ハヽ 御
通り 被遊 候 ハヽ 御断 申上
一 御目録 畢テ 退出
一 明日 西丸 御祭 共 常 ノ 通 代
不参 ニ 付 通知 ハ 上使 申出 ニ 及 ハ
申 ニ 及 ハ

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

十八日

一 高井中納言殿 當舍此方

一 桂御所ゟ昨夕運送御逆ゟ
従文左錨札拙系大原ゟ
此間淡伊美伺候ニ付大原
申出

一 羽倉ゟ御到申條ゟ使ゟ勤ゟ
此御ゟ申来

一 沸庭ゟ参上長持雨用意
被ニ帳消ゟ御使ゟ勤使
雨用意ニ付ゟ

一 吉伸ゟ沸須ゟ御ゟ
別紙図面ニ長持ゟ者ゟ
差出候ニ付一覧ニ
御ゟ御ゟ物ゟ真綿
奥向ゟ上ゟ様ゟ被仰候
等御ゟ西ゟ紙ゟ出ゟ

長持ゟ書違ゟ文ニ訂正ゟ

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

十八日

一 高井中納言殿 當舍坊

一 明日申條清使

清所 親王様

御座所様おお勤の当内人

一 小菊を勅使 女日数

三ヶ日おお通ひお供奉

伺済

書

一 所労 早報宮 奉行

門役様 文参向 普請

一 南門北脇宮 普請

清 奉行

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

十八日
一 春日中納言殿 當舍 江

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

十八日
一春日中納言殿 當舎并

十八日

一 萬井中納言殿 當舍坊殿

共新冊進ル心得之旨申渡ル

一 敬宮御付女房詰之内多人数差所労ニ付退出御勤仕ニ而明日ハ日次ニ而ハ詰切之筈之処夜ニ入ハ御出ニ而ハ無之ニ付退出之儀非常ニ御不勝手之由ニ而人数早ク出詰之儀申越ル

一 中出詰之女官生湯室内之儀御附之内ニ而可申渡旨申渡ル

但書之訴訟ニ於テハ其筋之訴訟ニ付生湯之砌ハ御介抱之為中詰

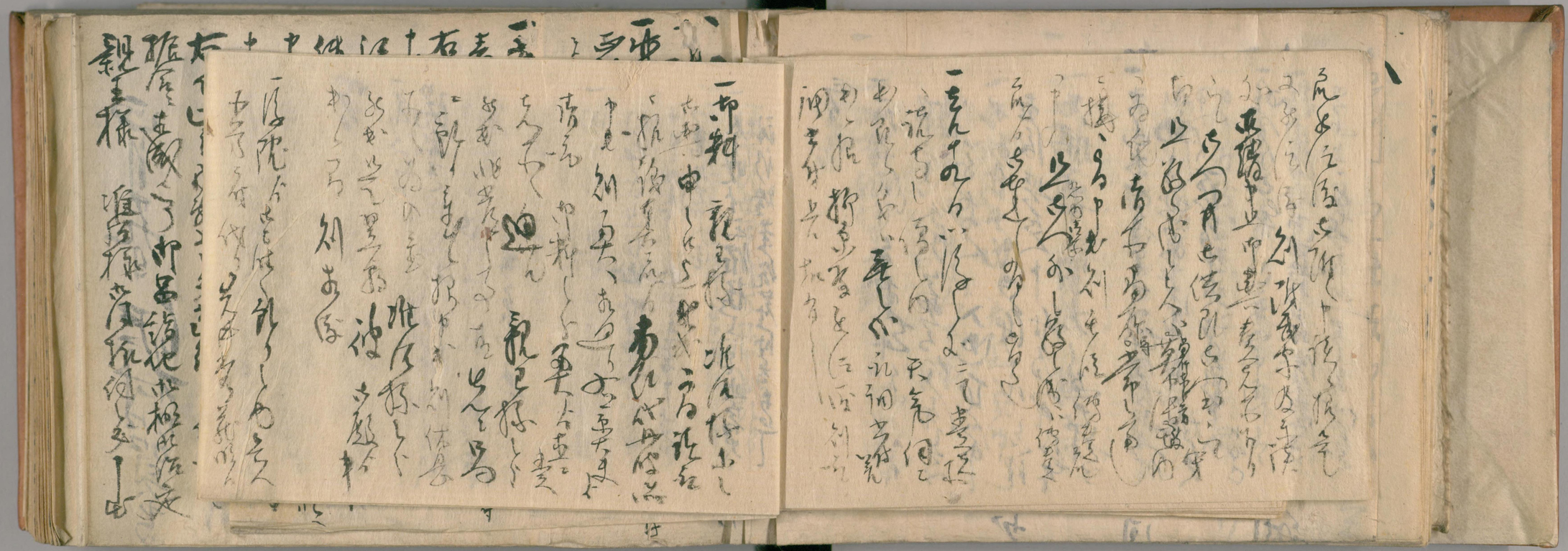
一 浦野安房 来月 日 隠居 年数 願之通隠居被仰付旨申渡ル

長持先ニ而書注之通申渡ル 翌十日取ニ遣ス

十八日
一 高井中納言殿 當舍坊
一 山科之士 高野蟠龍軒
昨日之礼ニ 当清之事ニ而届出
一 山科之士 菊池采運
役
高野蟠龍軒 事清之事ニ而
左近大夫殿 被仰渡
同意ニ而 菊池采運
一 来八月十日 宴席之饗宿
淨三面忌 有法寺
淨法事 御書院
奥ニ出ル 淨法事料
来月二日ニ 吉田出ル
八月朔日
一 明二日出 小判弐拾疋
白木大遠寺
一 来三日 雨気ニ付 延引
二日ニ 源行寺
雨気
長持先ニ 當通ル 御用ニ

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用

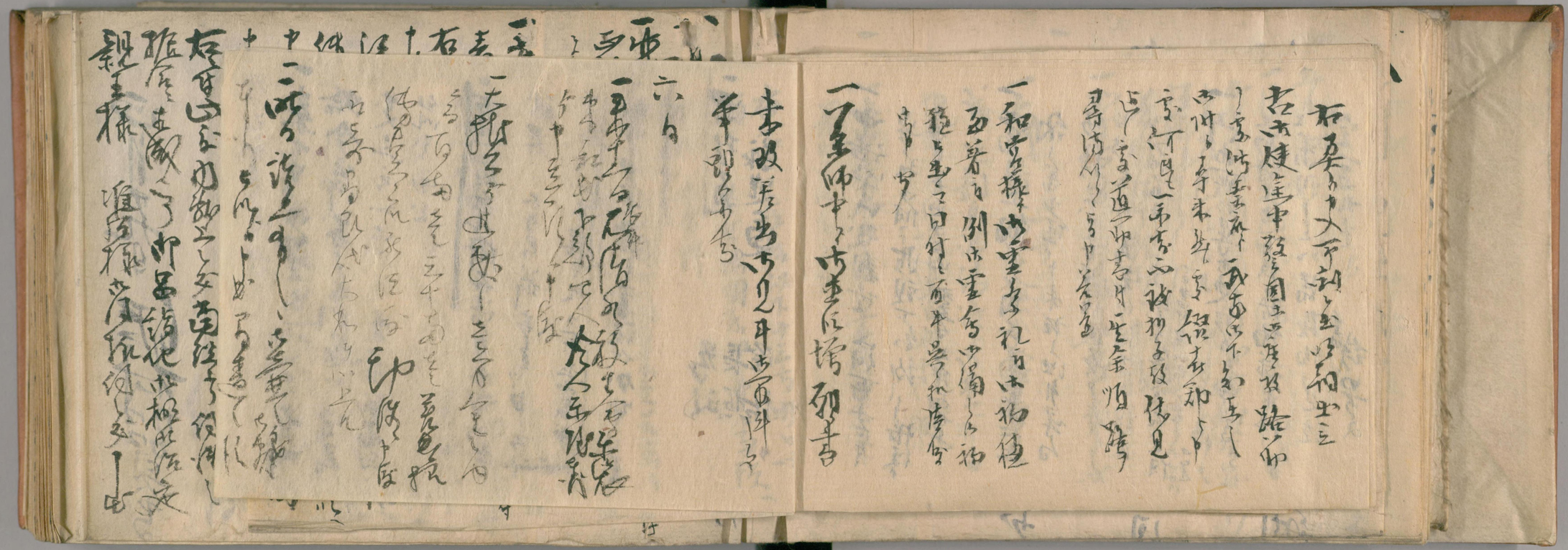


国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用



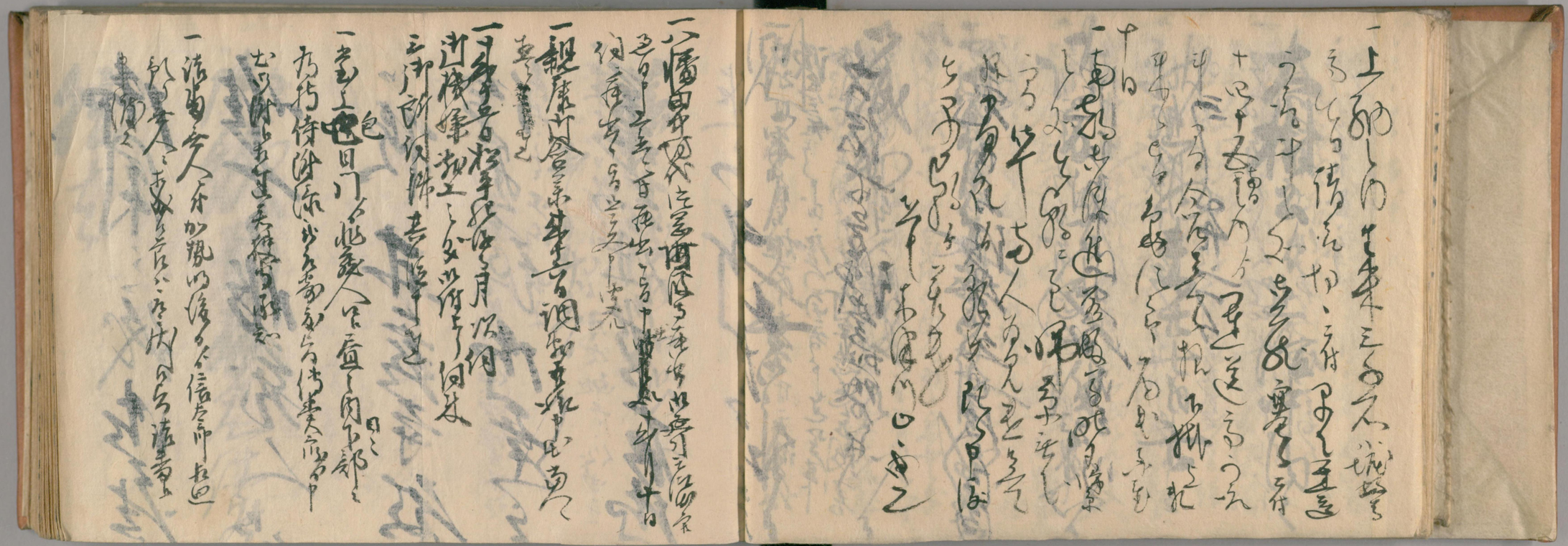
国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

十吾

一見廻り加勢等之儀今日ハ差支

一来十九日門侍所清祓向川原ニ
向ニて居業割同所南隅ニ陣幕支
人ニ廻り之申出ル筈頭ニ申渡ス

一剃髪之儀ニ付侍医奥向江
出向之処病気ニ付出勤無之

当分前金ニて仕候旨申出ル

一松之間中ニ明晩宿直ニ候処
休息所上之中ノ三等借用
之度旨若狭守申出ル筈

一侍医奥向金子去月十九日
来小門出入ニ仕度上方下部ニ
向之者共ニ附武家下部
ニ菊枝抔ニ仕候ハヽ如何仕候哉
尋ル筈ニ申渡ス

一松之間中ニ明晩宿直ニ候処
休息所上之中ノ三等借用
之度旨若狭守申出ル筈

一侍医奥向金子去月十九日
来小門出入ニ仕度上方下部ニ
向之者共ニ附武家下部
ニ菊枝抔ニ仕候ハヽ如何仕候哉
尋ル筈ニ申渡ス

右之花開急報人等ニ申渡ス

九ツ前

一来四日八瀬村業始ニ付

一

右之通ニ付

勅使

伝奏

七日ニ前

右来十二日之内

右女御御産ニ付

一

玉櫛之勅使

水尾之清祓

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

石清水二ヶ度ニ之次第申達

一御剣之儀従後拝入之事申上候様職事ヨリ
申渡候ニ付而ハ御剣ハ御車ニ乗候ニ付
御剣ヲ取ニ参候ニ及不申旨ニ付其ニ
御剣ヲ取ニ参候ニ及不申旨申達

九日

一殿下大久保加賀守ヲ以被仰
関白殿御出仕被申候

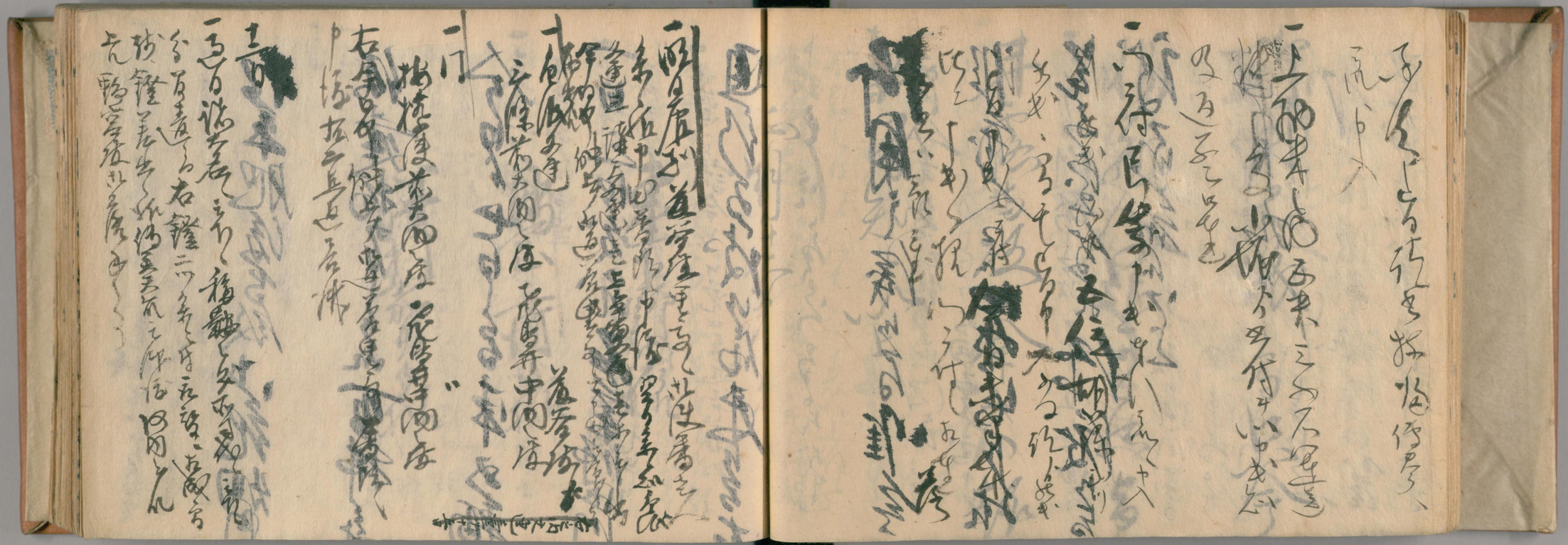
一建春門ノ内ニ仮屋ヲ作リ候都テ昨日
通ニ候

一明日ハ内々ニ而ハ無之候ニ付
申ノ

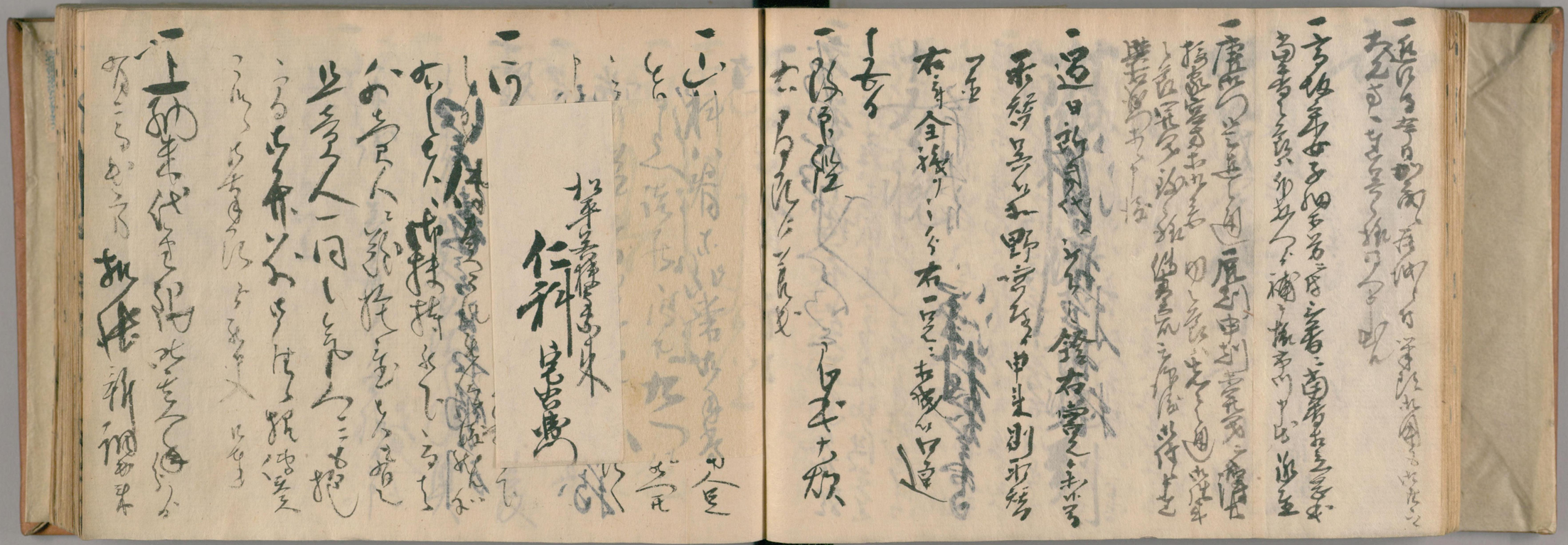
十日

一摂政殿今日月次ニ被参候ニ付
太平来ル十五日ニ可参旨
親王様
達之

一来ル十五日参内之儀



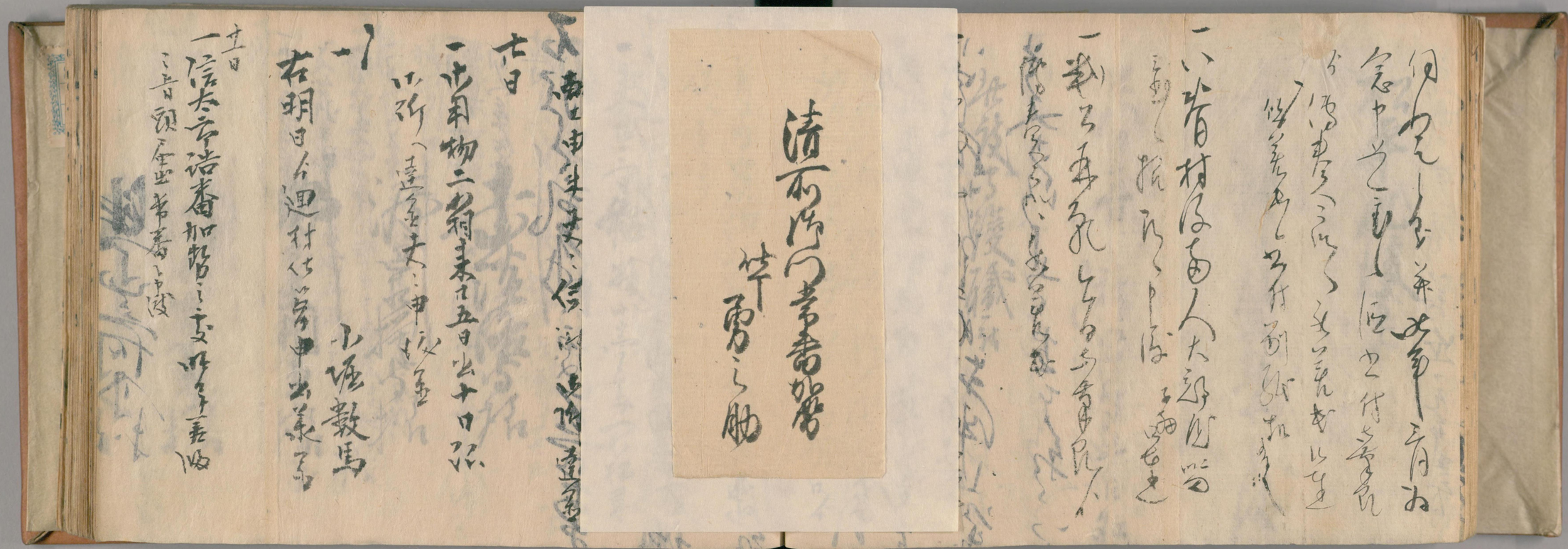
国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用　　挟み込み物

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

廿八日

一来ル廿九日御祝儀ニ付、例年之通、
被下物しるし有之候ニ付、
為御礼明晦日ニ参内可仕候、
以上

十二月廿八日　　勧修寺

一表立候儀ハ無之、明ル九日ニ参内ニ付、
為御礼参上仕候、
以上

十二月廿八日　　勧修寺

一大樹公ゟ月次鮮鯛献上ニ付、
為御礼参上仕候、
以上

十二月廿八日　　勧修寺

一明ル九日、朝廷ニ而祝儀ニ付、
大刀馬代献上ニ而、若文ニ而為取次
御参内ニ付、
御礼ニ参上仕候、
以上

十二月廿八日　　勧修寺

一来月二日ニ当日於御学問所、
御元服ニ付、
為御祝儀、
御太刀馬代献上ニ而、若文ニ而為取次
御参内ニ付、
御礼ニ参上仕候、
以上

十二月廿八日　　勧修寺

一三品伊賀守ゟ朝献上ニ付行逢ニ而
口達
明九日桂御所へ当役ゟ献上ニ而
今日夜ニ入殿、廻章

一表立候儀ハ無之、明ル九日ニ参内ニ付、
為御礼参上仕候、
以上

十二月廿八日　　梅津

一大樹公ゟ月次鮮鯛献上ニ付、
為御礼参上仕候、
以上

十二月廿八日　　梅津

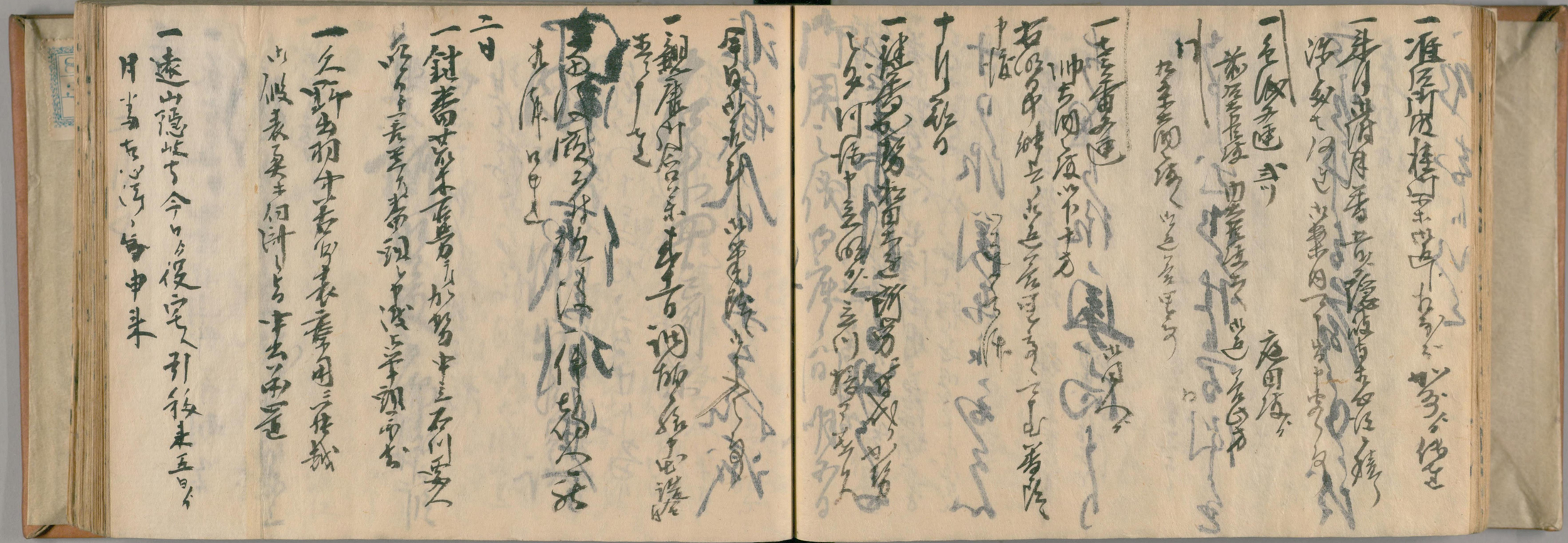
一明ル九日、朝廷ニ而祝儀ニ付、
大刀馬代献上ニ而、若文ニ而為取次
御参内ニ付、
御礼ニ参上仕候、
以上

十二月廿八日　　梅津

一来月二日ニ当日於御学問所、
御元服ニ付、
為御祝儀、
御太刀馬代献上ニ而、若文ニ而為取次
御参内ニ付、
御礼ニ参上仕候、
以上

十二月廿八日　　梅津

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

三日
一養方朝臣・松津男・浦野等明参
進ス、今夜申刻大夫ヲ乗輿
ス、警蹕ス

一来八日御産ニ当ル、松葉ヲ
伺置、御産ノ間焚ク
ベキ旨、北屋敷ヨリ報ス、仍テ
之ヲ焚ク

一来九日ヨリ来月朔日マデ
毎朝、当サリ参
内ス、

一今夜、寅刻ヨリ雨降ル、

四日
一朝、参進ス、特ニ昨日ノ御出
産ヲ祝賀ス、

五日

一 菜漬中公通日参当番之処、
[illegible]
[illegible]

一 又ハ帰国之後有之間中
[illegible]

右之外出加判之事
[illegible]

一 明六日菜漬中代参
[illegible]

右何も申来り次第
[illegible]

六日

一 陳列之甲冑
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

一来十九日 十日
戸田大和守 参内 御礼 申達 口達

一来十二日 御祭礼 勅使 参向 被仰下 候 間 其 心得 可申達 口達

九日

一来十三日 朔平門院 様 御忌 ニ付 小浜 中将 ニ 被 仰付 候 泉涌寺 役者 明日 出門 致 候 様 申達 口達

小浜 越前守 代
小村 主税 頭

十日

一来十五日 松平肥後守 月次 御礼 ニ 夫々 伺候 可申 口達

一修理職 入用 出来 ニ付 仕支 申 口達

一瑞龍寺 院 様 野宮 定 功 卿 ニ 被仰付 候 間 其 心得 可申 口達

成雄

十一

一来ル 東山 天皇 様 光格 天皇 様 新清和院 様 御 忌 ニ付 御 法事 料 ニ 被 為 済 候 間 泉涌寺 へ 可 被 下 渡 候 事

一来ル 十三日 朔平門院 様 御忌 ニ付 御 法事 料 ニ 被 為 済 候 間 泉涌寺 へ 可 被 下 渡 候 事

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

一明十二日泉涌寺へ御使
勅使
中御門宰相中将 烏丸前大納言 柳原前大納言
右例通来春早々中渡遣

一長橋局へ御使之儀口達

一光格天皇御葬礼之儀
新待賢門院御葬礼之儀、泉涌寺ニ於テ執行候ニ付而ハ、後金ニ而遠山寺へ行幸ニ付、泉涌寺ニ而ハ申出ニ不及候ニ付、遠山寺へ申出ル筈ニ候処、遠山寺ニ而ハ申出ニ不及旨
行遠口達

一明後廿日加州へ来ル廿日中宮賢路
御門等地車往反之儀帳役申出
来ル廿日

一和歌之内面拭立聞響差紙
藤若狭守殿手紙壹通到来ニ付、
名代ニ上ル筈ニ付又新調出来ニ付置候様
被仰渡帳役江申渡置 十月廿日新調出来

一養寿院今晩宿被免ル筈ニ付加勢
秦田中明日ゟ差返取斗候様
筆頭兼知

一岩倉御山へ遣ス日ハ隔日ゟ為見ゟ
行向ル筈ニ付御門番ゟ御山へ申出

十二日

一鍵之事加勢石川相日ゟ差返取早嘱

一修理職加勢七條明後十日ゟ差返取早嘱

一星野源出ゟ之事従諸出聞嘱之禮ニ
出献拳行献方非藏人等ニ行向様
心得之事

一明晨准后様ゟ藏前ニ午後出勤
被仰出之筆頭申渡
右ニ付閑道開之事

十三日

相ニ勢変
御答三十五
右ゟ之十二ヶ中刻迄ニ鍋早速差添
誰ニ不寄一ツ
御答申
御通
右何ニ而も立春ニ不寄一ツ
ゟ之事

十四日